

公開資料

戦略的創造研究推進事業  
(社会技術研究開発)

研究開発実施終了報告書

[研究開発成果の定着に向けた支援制度]

「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」

研究開発領域

「トラウマへの気づきを高める

“人 - 地域 - 社会”によるケアシステムの構築」

研究開発期間 平成 29 年 10 月～令和 5 年 3 月

研究代表者氏名 大岡由佳  
武庫川女子大学短期大学部 准教授

本研究開発プロジェクトは、当初の研究開発期間後の令和 3 年 4 月より「研究開発成果の定着に向けた支援制度」の適用となったため、本報告書は同制度適用期間中（令和 3 年 4 月～令和 5 年 3 月）の実施を報告するものである。

平成 29 年 10 月から令和 3 年 3 月までの研究開発成果については、「研究開発実施進捗報告書」に記載し、RISTEX HP にて公開している。

## 目次

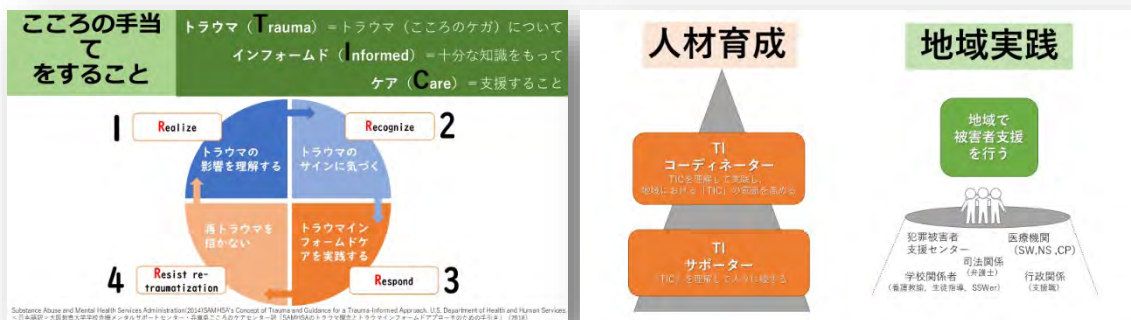
I. 本研究開発実施終了報告書サマリー .....	3
II. 本編 .....	4
1. プロジェクトの達成目標 .....	4
1-1. プロジェクトの達成目標 .....	4
2. 研究開発の実施内容 .....	4
2-1. 実施項目およびその全体像 .....	4
2-2. 実施内容 .....	5
3. 定着支援期間中の成果 .....	10
3-1. 目標の達成状況 .....	10
3-2. 定着支援期間中の成果 .....	11
4. 領域目標達成への貢献等 .....	15
4-1. 領域目標達成への貢献 .....	15
4-2. その他 .....	15
5. 研究開発の実施体制 .....	16
5-1. 研究開発実施体制の構成図 .....	16
5-2. 研究開発実施者 .....	16
5-3. 研究開発の協力者 .....	17
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など .....	18
6-1. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など .....	18
6-2. 論文発表 .....	22
6-3. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表） .....	23
6-4. 新聞報道・投稿、受賞など .....	25
6-5. 特許出願 .....	26
7. 領域のプロジェクトマネジメントについてのご意見や改善提案（任意） .....	26
8. その他（任意） .....	26

## I. 本研究開発実施終了報告書サマリー

本研究開発では、トラウマ（こころのケガ）を負った人がいたとき、こころのケガについて十分な知識を持って支援/関与できる人・地域・社会の中で、当事者が人と人のつながりの中で回復できる社会を目指して、トラウマインフォームドケア（TIC）の実践と普及に多職種・他領域と協働しながら取り組んできた。

本研究開発では 2 本柱である人材育成と、その育成された者たちが活躍できる地域実践（被害者支援連携事業）の展開を行ってきた。コロナ禍ではあったが、人材育成はオンライン講座の開設にて全国の様々な市民を集約し、地域実践では実際にトラウマやトラウマインフォームドな被害者支援を学ぶシンポジウム等を複数開催する中で、被害者支援への関心が高まった。それらの成果を学んだ受講生等が、今日本の各地で支援組織として産声をあげようとしている。研究開発期間中に、この研究開発を持続可能な形で定着させるための仕組みの検討も行ったことで、研究成果の定着の目途もついたと考える。

この研究開発によって、安全・安心で信頼感のある、暮らしが保証され、人の尊厳が守られるトラウマインフォームドな社会づくりの一助になったと確信している。



## Ⅱ. 本編

### 1. プロジェクトの達成目標

#### 1-1. プロジェクトの達成目標

##### A. 事業計画の策定

(協働実施者：毎原敏郎) が (研究代表者：大岡由佳) および (研究実施者：大江美佐里、肥後有紀子、大塚淳子) らと協力して、市民を対象とする研修および地域実践を実行する、TICC 実践事業計画が策定されていることを目標とした。

具体的には、定着支援期間中に取得した研修コンテンツや地域実践のノウハウに基づき、TI サポーター、TI コーディネーター、および TI アドバイザーの TICC 養成事業の内容が含まれた事業計画であった。

- ・ TICC 事業コンテンツのオンラインプログラム化
- ・ 地域実践のための体制整備の立案

##### B. 事業計画の実行のための準備

上記のように策定された TICC 事業計画を実行するための準備として、以下が達成されていることを目標とした。

- ・ TICC 事業計画を実行できる事務局体制の構築
- ・ TICC 事業の複数養成プログラムの調整
- ・ TICC 事業計画を実行できる地域実践の支援者人材の確保
- ・ TICC 事業計画を実行できる活動資金の獲得、資金繰り計画の確定

## 2. 研究開発の実施内容

### 2-1. 実施項目およびその全体像

実施項目①：TICC 事業のオンラインプログラム化

(TI サポーター、TI コーディネーター)

実施項目②：地域実践のための体制整備の立案

実施項目③：事業の事務局体制の構築

実施項目④：複数養成プログラムの包括化

実施項目⑤：地域実践の支援者人材の確保

実施項目⑥：TICC 活動資金の獲得、資金繰り計画の確定

実施項目⑦：知的財産の整理

## 2-2. 実施内容

### 実施項目①：TICC 事業のオンラインプログラム化

#### (TI サポーター、TI コーディネーター)

(1)目的：市民や対人援助を行う人々に対して、オンデマンドの講座を提供することにより、TIC（トラウマインフォームドケア）の視点を社会で共有する。

(2)内容・方法・活動：TI サポーター、TI コーディネーターのいずれも 6 コンテンツに分かれており、オンライン上で、登録をした者が受講できるシステムを整えた。

コンテンツは、定例会議にて多職種（精神科医、小児科医、心理士、精神保健福祉士、社会福祉士等）で検討を加え、ナレーション付きの講座をパッケージ化した。

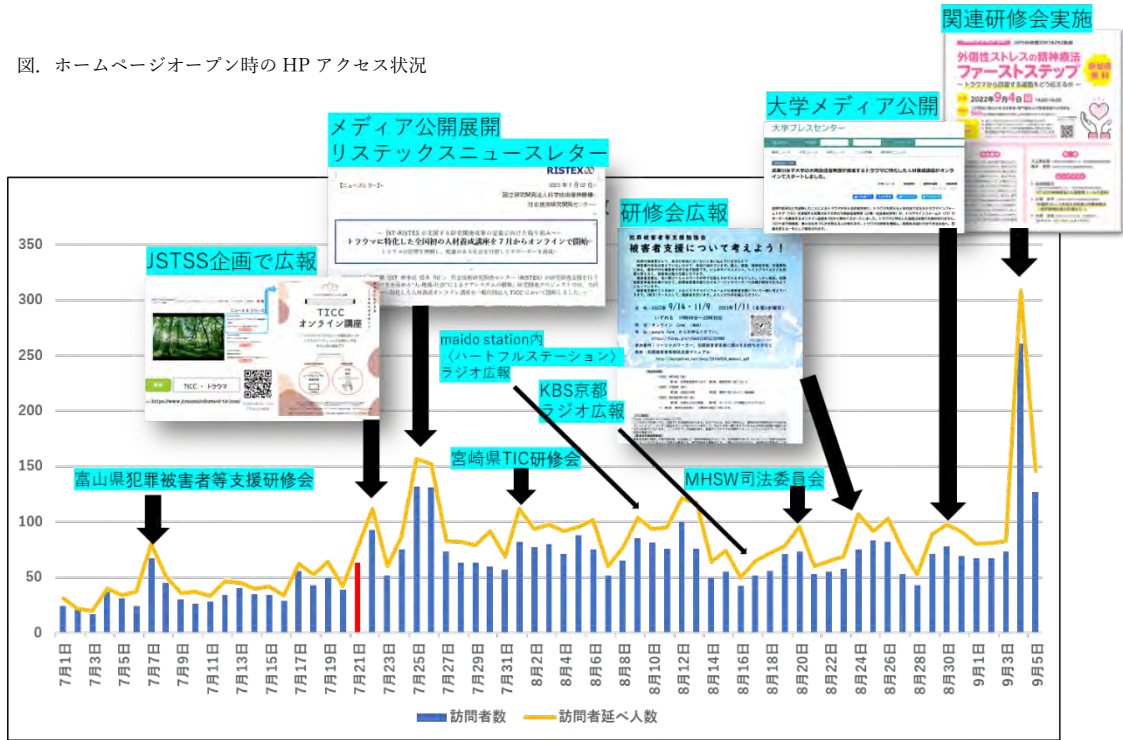
講座は自分の速度で受講できるようにクリックで次に進める仕組みとし、講習受講したごとにバッジ獲得表示がされたり、修了証を発行して、本講座受講への付加価値を高めた。被害者支援等を行う者には特に受講してもらえるように PR 活動を行った。内容の妥当性を確保するため、オープン前にモニター100名、およびアドバイザーボードの委員、リステックス領域マネジメントの関係者にご視聴いただき、内容調整を行った。TI サポーター講座は、2022年7月にオープンした（上画像）。TI コーディネーターは、2023年3月にオープンする予定である。

(3)結果：TI サポーターをオープンした2022年7月以降現在までの平均サイト訪問者数は2500件/月で、サイト会員（受講者）は総計436名（モニター受講者100名を省く、2022年12月現在）であった。講座修了率は、講座によってばらつきがあるが78%~95%で、すべてのコンテンツを終了した者は207名であった。使用端末は、タブレット<PC<モバイルの順が多かった。地域別では、東京、兵庫、大阪、神奈川、福岡の順が多かった。

(4)特記事項：感染症対策としてオンラインの研修が増えているが、対面研修よりも、オンライン研修や、メディア露出によりアクセス件数が増加する傾向が顕著であった（下図）。リステックスニュースレターにてメディア公開（2022年7月25日頃）による展開をしてもらうことでアクセス数、受講者が上昇した。



図. ホームページオープン時の HP アクセス状況



## 実施項目②：地域実践のための体制整備の立案

(1)目的：我が国において、福祉専門職が関与するトラウマインフォームド・コーディネートを基盤とした被害者支援を確立し、モデル事業として打ち出す。

(2)内容・方法・活動：日本の被害者支援は、ボランティアから派生して実施されるようになった経緯があり、相談支援に欠かせない支援のコーディネートを専門職の配置が進んでこなかった。オンライン講座を受講した者らの実践の場の足場とするため、被害者のトラウマをふまえて支援のコーディネートを円滑に行う体制事業を立ち上げるべく大阪をモデル地域として、弁護士や民間被害者支援団体等のもとに寄せられた被害者ケースに対してコーディネート支援を行った。弁護士、医師、心理士、社会福祉士、精神保健福祉士等が参加する他職種連携ケース検討会は月1回関係者らが参集し実施した。

その事業の周知のために、大阪弁護士会被害者支援委員会弁護士（有志）と協働して研修会（後援：大阪精神保健福祉士協会、大阪社会福祉士会、大阪ソーシャルワーカー協会、大阪医療ソーシャルワーカー協会、大阪弁護士会）を実施した。また兵庫弁護士会犯罪被害者支援委員会の委員長らと会議を実施して、体制を模索した。民間支援センターについては、ひょうご被害者支援センター、および大阪被害者支援アドボカシーセンターと連携し、専門職と支援センタースタッフの合同研修会を開いて、情報交換、支援の方向性の議論し、民間被害者支援団体のケースを請け負った際には、支援調整会議への参画も行った。地方公共団体としては、大阪市、大阪府、堺市等に

において、(架空) ケースを通して、連携体制の検討に加わった。

(3)結果：被害者支援連携事業として、被害者の相談（メール相談を含む）は 250 件程度（延べ件数）であった。アウトリーチ支援としては、弁護士事務所、行政や精神科病院、民間被害者支援団体、裁判所等に同行した。福祉専門職が弁護士と連携して被害者をサポートする仕組みを構築した。

(4)特記事項：なし。

### 実施項目③：事業の事務局体制の構築

(1)目的：研究開発実施終了後もこの活動を行うべく法人化をして、体制整備に当たった。

(2)内容・方法・活動：2021 年 9 月中旬に一般社団法人化を行い、役員等が選出された。一般社団法人の住所を置く兵庫県立尼崎総合医療センター内では、一般社団法人としての定着のための実践研究が実施しづらいことがあり、2022 年 4 月より、JST 委託研究契約を一般社団法人 TICC で結び、更なる TICC 事業の実施体制の強化を図ることになった。一般社団法人を知らしめる方法として、シンポジウム「トラウマインフォームドな人-地域-社会を目指してー子どもと家族・支援者の協働ー」を 2022 年 10 月 29 日に開催した（下写真）。TICC として、H2O サンタへの協力の検討も行った。

(3)結果：事務局体制として固まったのち、定例会議は兵庫県立尼崎総合医療センターで行い、在宅ワーク等を併用しながら運営した。法人としての一大イベントとして企画した上記のシンポジウム開催では、359 人の参加があった。4 分の 1 はソーシャルワーカーの申し込みで、市民も一定数参加しており、関心の高さが見受けられた。企画時の TICC ボランティアにも実働してもらった。事務局体制による体制整備が整ったことにより行えたシンポジウムであった。



(4)特記事項：なし

#### 実施項目④：複数養成プログラムの包括化

(1)目的：一般社団法人として後に提供するオンライン講義の充実に向けて、様々なコンテンツを集約・活用し包括化する。

(2)内容・方法・活動：科研費『「被害者の視点を取り入れた教育」の実践に関する研究』（基盤 C：課題番号（18K02097））の成果も含めて、オンライン講義に集約した。また、JST・RISTEX のプロモーションビデオ作成のために動画（「子どもの"傷つき"にどう気づき、対応するか？」<https://youtu.be/0moz9RAYGfg>）を作成したのも、コンテンツに入れ込む形で包括化を図った（右写真）。



(3)結果：T I C C 独自に作成していく研修コンテンツに加え、研究代表者がもつ科研費研究成果の融合を図ることで、複数養成プログラムの包括化を図った。研究期間内に、知財の整理を行い、プログラム運用を一般社団法人 T I C C が一括で行うことができるように整理をしている。

(4)特記事項：なし

#### 実施項目⑤：地域実践の支援者人材の確保

(1)目的：トラウマインフォームド・コーディネートができる支援者人材（相談員）を全国に作る。

(2)内容・方法・活動：コーディネートを生業とする社会福祉士・精神保健福祉士に対し

4月24日開催のシンポジウム参加者の情報元



- 職能団体（精神保健福祉士）の案内
- 職能団体（社会福祉士）の案内
- 職能団体（弁護士）の案内
- 民間被害者支援団体・ネットワークの案内
- その他関係機関からの案内
- 本事業のホームページやFacebook等からの案内
- 個人的な案内
- その他

て、ソーシャルワーカー4団体対象の研修会（2022年4月24日）を行った。参加者は多様な分野から情報を得て参加した。大岡PJ主催の被害者支援勉強会を3回シリーズで行い、各地に被害者支援に従事したい人に相談員登録してもらうシステム化を進めた。

(3)結果：上記研修会では、146名の申し込みがあり、117名が当日参加をした。3回の被害者支援勉強会には全国から205名の申し込みがあり、それぞれの回で継続的に参加していた。支援者人材の確保は大阪を中心に展開してきたが、今回の3回研修に



より全国で25名のトラウマインフォームドな被害者支援の相談員登録があった。地域は、東京、兵庫、北海道、宮城、茨城、千葉、神奈川、石川、長野、静岡、滋賀、三重、大阪、大分、鹿児島にまたがり、東京においては、支部が2023年には立ち上がる予定で話を進めている。

- (4)特記事項：Covid-19のために、研修会等を打ち出すにも対面で行うことが出来ないことも多く、実際の支援者を養成するうえで、人材の選定等も含め難航することもあったが、オンラインの手軽さが、全国に相談員登録の展開に功をなした。

#### 実施項目⑥：TICC活動資金の獲得、資金繰り計画の確定

- (1)目的：研究開発終了後にも事業を継続できる経済的基盤を確立する。
- (2)内容・方法・活動：2022年度については、研究開発中につき、オンラインプログラムは無償で提供したが、冊子媒体は2000円（送料込み）で提供した。2023年度以降の資金の獲得については、各方面の公募に対して申請を行った（RISTEX 孤独枠、岩佐賞、科研費、西日本あんぜん社会財団、日本財団、犯罪被害救援基金、休眠預金など）。また、今後の財源のための寄付を募る準備も行った。
- (3)結果：冊子は受講者の1割程度が購入し、収益を得た。資金獲得については、2022年12月時点で、日本財団から追加質問が来ており、審査待ちとなっている。また、RISTEXから情報提供された休眠預金事業は、休眠預金等活用法 指定活用団体 一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）との連携試行へ参画したものであったが、ある団体から一般社団法人TICCに2023年度からの連携打診が舞い込んだ。資金獲得の手段として、キワニスクラブに挨拶に出向くなど寄付先の調整も進めている。
- (4)特記事項：なし。

#### 実施項目⑦：知的財産の整理

- (1)目的：研究開発にて開発したリーフレットや動画の知財を、活動が持続可能な一般社団法人TICCへ移管する。
- (2)内容・方法・活動：武庫川女子大学、尼崎総合医療センター、関連弁護士で状況整理を行い、知財の管理を整備した。
- (3)結果：2018-2021年にかけて作成してきたパンフレット等の知財について、武庫川女子大学から一般社団法人TICCへ知財の移管は終了した。2022年度の知財については、2022年度終了時まで整理する。
- (4)特記事項：なし

### 3. 定着支援期間中の成果

#### 3-1. 目標の達成状況

本プロジェクトでは、2本柱として、1. オンライン講座公開、2. 被害者支援の地域実践の事業化を掲げていた。これらの達成目標は大方達成できたと思う。

##### 1. オンライン講座公開

実際に得られた成果として、TI サポーター講座を作成し、一定数の受講生から概ね高評価を得た。モニター意見からは、以下のようなコメントが多数寄せられた。

- ・わかりやすく馴染みやすい内容でした。
- ・何度も見返したり、少し飛ばしたりできるのもすごくよかったですと思います。
- ・動画、図式化などがうまく取り入れられていたと思います。
- ・丁寧な構成で一般市民が学ぶには受講しやすいと思います。

また、本プロジェクトの第3者委員として以下の方々に評価を依頼し、それ相応の評価を頂いた。

亀岡 智美氏 兵庫県こころのケアセンター 副センター長  
鴻巣 たか子氏 犯罪被害者団体ネットワーク（ハートバンド） 運営委員  
佐々木 達也氏 武庫川女子大学経営学部経営学科 教授  
中村 舞斗氏 NPO 法人 虐待どっとネット 代表理事  
西 大輔氏 東京大学医学系研究科精神保健学分野 准教授  
山本 千尋氏 山城小児科医院 院長

##### 2. 被害者支援の地域実践の事業化

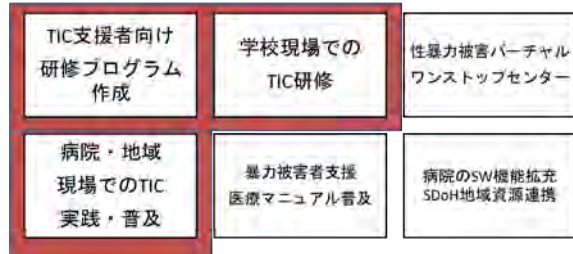
RISTEX ガバナンス会議にて、他地域展開もよいが、地域を絞ってモデル事業を展開させる方にも意義があるとの示唆に基づき、大阪に限定して多機関連携を行うモデル事業を展開してきた。コロナ禍によって、対面人員交流が十分には進んでいないものの、大阪に次いで、東京にもランチを立ち上げる予定になっている。非営利事業となるため、RISTEX 研究開発終了後は、現在申請中にいずれかの助成を受けて実働していく予定で準備を進めている。定着支援としては実際の支援モデルと形作った意味で、一定の成果があったと考える。本事業については、日本社会福祉学会 第70回秋季大会（2022.10.16）セッション名／医療保健・医療福祉にて学会報告を行った。また、今までの研究開発の成果をまとめた、2023年3月に、『トラウマインフォームドサポートブッカー被害者支援のために』（中央法規出版）を出版予定である。

### 3-2. 定着支援期間中の成果

#### 3-2-1. 定着の核となる研究開発成果

“トラウマへの気づきを高める“人・地域・社会”によるケアシステムの構築”では、虐待や暴力等の被害者が持つ心身の影響（Trauma）について、知識に基づいた（Informed）支援（Care）（Trauma-Informed Care; TIC）をどう地域・社会が認識し、連携していくかをテーマに研究開発を行ってきた。

TIC研究成果の全体像と  
定着支援につなげたい成果（赤枠）



#### 1. TIC 支援者向け研修プログラム作成

2020年度までに達成した研究成果のうち、TIC 支援者向け研修プログラムは、当初の研究開発計画書の中では TIC 研修グループに属していた。久留米大学医学部神経精神医学講座の大江美佐里准教授が中心となり、支援者を対象とした「こころの器が壊れるとき—支援者のためのトラウマ体験・理解プログラム」を開発した。本プログラムは、1日（8時間程度）のワークショップによって支援者としてトラウマ体験を抱えた人にどう接するかを学ぶものであった。

また、TIC 研修グループおよび、大岡 PJ 全体の協力を得て作成した「困った人、は困っている人」の心理教育リーフレットを開発した。こちらの教材は、それぞれの支援者研修等で、それぞれの研修時間に合わせて自在に活用してもらえるようになっている。心理教育に絡む書籍『トラウマの伝え方』（誠信書房 2021 年発行）でも紹介された。各地の研修会等ですでに活用を頂き、活用をめぐっての問い合わせが随時事務局に寄せられた。熊本県、大阪府が独自に作成した TIC パンフに参考頂き、引用された（右図）。



今回の定着支援では、この研修プログラムを人材育成プログラムとして使い、TIC という外来専門用語を「トラウマ」部分を「こころのケガ」に置き換える形でトラウマ・インフォームドの視点をもって人々に関われる人材（後述の「トラウマインフォームド・サポーター（通称：TI サポーター）」、さらに TIC を当事者の方々を対象に実践できる人材（「トラウマインフォームド・コーディネーター（通称：TI コーディネーター）」および指導的立場の人材（「トラウマインフォームド・アドバイザー（通称：TI アドバイザー）」の育成を行うことを主軸としていた。

## 2. 病院・地域現場での TIC 実践・普及

TIC 実践・普及として、1. で講座を受講した者らに参画してもらい、被害者支援連携事業のモデル事業を大阪で立ち上げた。実際の地域において実践のなかに TIC の発想を入れていくことが、TIC の普及にも寄与した。医療現場においては、2020 年度まで共に研究開発を進めてきた「性暴力被害バーチャルワンストップセンター」実施者が、科研費により別途資金を得て、「周産期における心理的トラウマに配慮したケアプロトコルの開発に関する研究（基盤 C 21K10846）」という形で、実践・普及に進めている。（研究代表者も分担研究者として参画）

## 3. 学校現場での TIC の研修

上記プログラムに加え、育成された人材がどのように現場で実践を広げていくのかについても定着支援に盛り込む必要があると考えた。これまで研究してきた成果のうち、コミュニティの中で傷つき（トラウマ）を有した子どもの発見につなげるために多面的な研修・効果検証を行ってきた、兵庫県立尼崎総合医療センターでの実践は先駆例として地域実践例として有用であり、この成果も定着支援に活用できればと考えた。学校 TIC 実践部分についても、地域実践の成果の一つとして定着して研究を継続させてきた。実際に、研究代表者と協働実施者は、A 市の学校 SSW のスーパーバイザーを務めたり、専門家会議委員に就任したり、要保護児童対策協議会に関与したりと、地域実践に如何に TIC を組み込むかについて現場と一緒に考え作り上げてきた。学校現場の性被害ケースや自殺ケースが出てきた場合の危機対応で管理職へのコンサルテーションが、実際の児童・生徒への介入等にも関与する仕組みが構築されるに至った。

### 3-2-2. 事業計画

#### A0 事業の実施期間

3 から 5 年

#### A1 事業の理念と目的

トラウマ（こころのケガ）やトラウマインフォームドケア（TIC）の考えは、誰にとっても優しい社会であり、希望が持てる社会になると考えている。そのトラウマインフォームドな発想を社会に広めることをその目的とする。

#### A2 事業の具体的な内容

社会で定着することを目指すべく、研究開発後も実践を行える受け皿として一般社団法人 TICC“こころのケガを癒やすコミュニティ事業”を立ち上げ、その事業体を母体として、オンライン講座を提供し、その講座を受けた者達の実践の場として、被害者支援連携事業を実施する。

#### A3 事業実施体制

実施体制は、以下の図のように、武庫川女子大学（研究代表者）と、尼崎総合医療センター（協働実施者）、また同住所に籍を置く一般社団法人 TICC を母体とし、様々な関係者

と協働して事業実施を行った。

#### A4 活用する資源

研究代表者、および協働実施者は、ともに医療や福祉の専門職であり、日ごろから多職種ネットワークを構築してきたため、行政、警察、検察、学校、教育委員会、弁護士、民間被害者支援団体等、様々なネットワークを駆使して、本事業に参画する専門職を巻き込んで、オンライン講座を作成したり、被害者支援連携事業を実施した。

#### A5 他事業との差別化

そもそも日本においては、専門的知見をオンライン講座で受講できるパッケージ自体が少ないが、本事業と他事業との違いは、本事業は公益性を重視し、TICを社会に広げるという観点から、無料でオンライン講座を受講できるシステムを開発した。それらのパッケージとなった講座は、いずれも、専門職らによって科学的知見に基づく結果を交えて作成された連続的な講座であり、明らかに商業用の講座とは異なっている。また、その講座を受けた受講者の社会への有効活用として、被害者支援連携事業への関与もできるよう、出口を作っているところにも特徴がある。

#### A6 事業遂行のための資金と要員の調達計画

2023年度から事業遂行するための資金は、現在申請中の複数の助成金が獲得できると、本事業の拡大を図っていくことができる。仮に助成金が獲得できなかった場合も、すでに週1回で事業維持を担う人材・資金の用途は来年度分は確保できており、成果物を今後も市民に活用してもらうことは可能な状況にある。

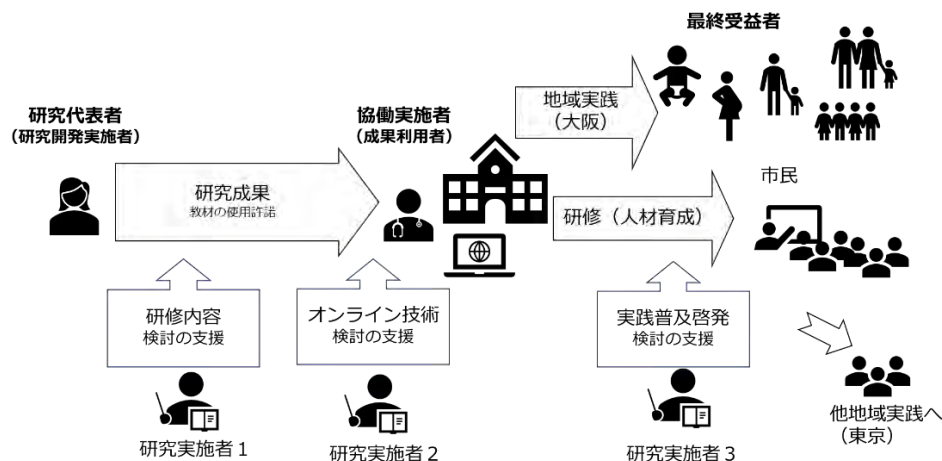
#### A7 今後の活動スケジュール

オンライン講座については、TIサポーター講座は2022年7月にオープンしており、TIコーディネーター講座は2023年3月にオープンすべく準備を進めている。

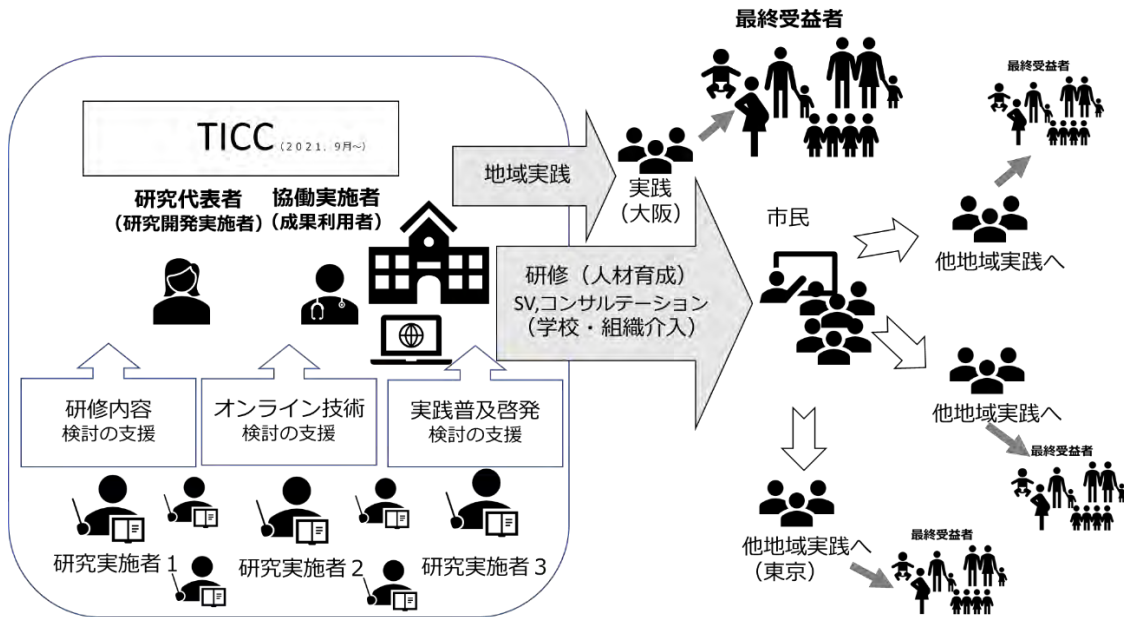
被害者支援連携事業については、今まで大阪を中心にモデル事業を展開してきたが、2023年春には新たに東京にてランチ結成を目指して調整を図っている。

#### A8 上記を踏まえ、現時点での事業の全体像及び事業実施期間終了時点での全体像

<現在>



<5年後>



### 3-2-3. 事業計画実施のための準備

#### B1 事務局設置の調整

実施体制を構築するために、事務局設置の場所を巡っての大学や病院との交渉や調整

#### B2 法人化設立の対応

研究開発定着するための仕組みとして進めた一般社団法人化設立の対応

#### B3 被害者支援連携事業を担える人材の育成、確保

成果(オンライン講座)を活用して社会の問題である被害者支援の取り組みを行う人材の育成、確保

#### B4 活動資金の確保

2023年度以降に活動を持続するための資金繰り

#### B5 知的財産の調整

著作権、商標、特許等の知的財産の取得(出願含む)に向けた大学等の知的財産関連部門との調整

#### B6 第三者委員会の設置

アドバイザーボードの委員にご就任頂く先生型への内諾・調整

### 3-2-4. その他

特記すべき事項はなし。

## 4. 領域目標達成への貢献等

### 4-1. 領域目標達成への貢献

本研究開発においては、2018-2020年までは、TIC支援者向け研修プログラム作成や、学校・医療現場の介入等に加え、サイバー空間の拡大による親密圏の変容を踏まえて、バーチャルワンストップ支援センターの開発を行ったり、発見・介入しづらい空間・関係性における危害（二次被害）の防止のための暴力被害者支援医療マニュアル、病院のSW機能拡充 SDoH 地域資源連携の研究開発を行い、専門職のニーズがあった TIC 的視点を高める研究開発に貢献した。

また、2021-2022年度は、2018年度からの成果をもとに、発見・介入しづらい空間・関係性における危害や事故の予防と低減に資する枠組みとして、市民が TIC の理解を進め、身近な被害者への介入・ケアができるよう、全国に向けてオンライン講座の開設に至った。

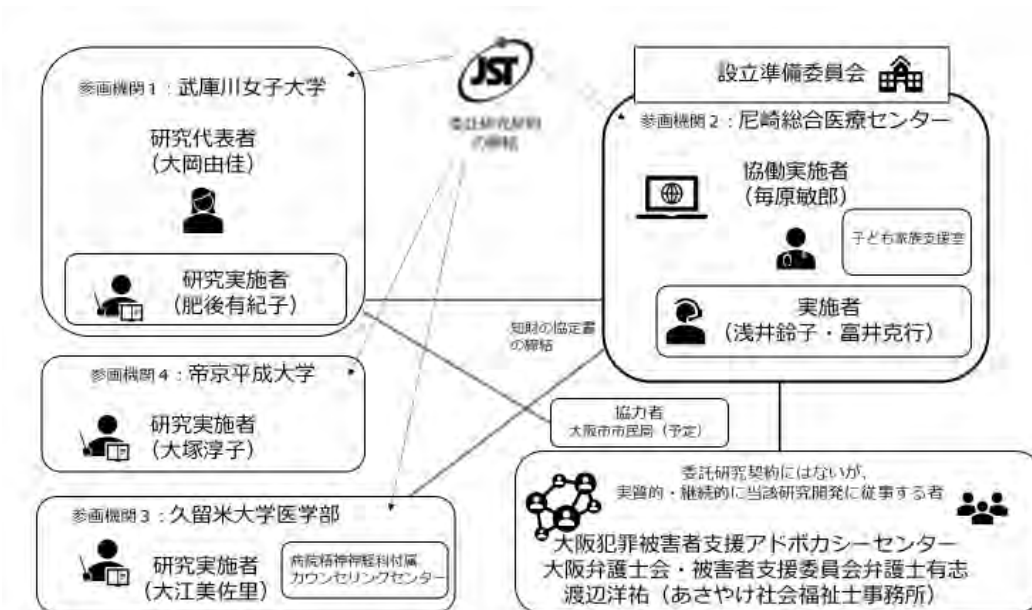
さらには、TIC の取り組みが継続的に実施されていくために、一般社団法人 TICC を立ち上げ、持続可能な社会システムの一資源として、学術的な側面を持ち合わせた対人専門職集団の組織として、TIC を基盤とした思考・考え方を共有するネットワークを構築した点で有意義であった。

### 4-2. その他

仲 PJ と、JST・RISTEX のプロモーションビデオ作成のために動画（「子どもの"傷つき"にどう気づき、対応するか？」 <https://youtu.be/0moz9RAYGfg>）を作成する中で協働した。また、それらの協働の結果を踏まえ、2023年開催の日本トラウマティック・ストレス学会（JSTSS）において、司法面接と TIC をテーマにシンポジウムを開催することになっている。

## 5. 研究開発の実施体制

### 5-1. 研究開発実施体制の構成図



### 5-2. 研究開発実施者

#### (1) マネジメントグループ (リーダー氏名: 大岡由佳)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
大岡由佳	オオオカユウカ	武庫川女子大学	文学部	准教授
毎原敏郎	マイハラトシロウ	尼崎総合医療センター	小児科	科長
浅井鈴子	アサイレイコ	尼崎総合医療センター	小児科	MSW
金田康平	カナタコウヘイ	一般社団法人 TICC	事務局	事務局長
富井克行	トミイカツユキ	一般社団法人 TICC	事務局	事務長

#### (2) オンライン講座グループ (リーダー氏名: 毎原敏郎)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
毎原敏郎	マイハラトシロウ	尼崎総合医療センター	小児科	科長
大岡由佳	オオオカユウカ	武庫川女子大学	文学部	准教授
大江美佐里	オオエミサリ	久留米大学	保健管理センター	准教授
肥後有紀子	ヒゴユキコ	武庫川女子大学	情報メディア学科	准教授
柳田多美	ヤナギタタミ	一般社団法人 TICC	研究部	研究員



浅野恭子	アサノキョウコ	大阪府	女性相談センター	所長
浅井鈴子	アサイレイコ	尼崎総合医療センター	小児科	MSW
金田康平	カネタコウヘイ	一般社団法人 TICC	事務局	事務局長

(3) 被害者支援連携事業グループ（リーダー：大岡由佳）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職（身分）
大岡由佳	オオオカユウカ	武庫川女子大学	文学部	准教授
毎原敏郎	マイハラトシロウ	尼崎総合医療センター	小児科	科長
柴田真理子	シバタマリコ	尼崎総合医療センター	精神科	部長
大塚淳子	オオツカアツコ	帝京平成大学	現代ライフ学部	教授
浅井鈴子	アサイレイコ	尼崎総合医療センター	小児科	MSW
金田康平	カネタコウヘイ	一般社団法人 TICC	事務局	事務局長

5-3. 研究開発の協力者

氏名	フリガナ	所属	役職（身分）	協力内容
木村 有里	キムラ ユリ	大阪教育大学	相談員	専門的助言（心理）
四井 恵介	ヨツイ ケイスケ	(有)地域・研究アシスト事務所	代表	調査（病院調査担当）
高濱 浩子	タカハマ ヒロコ		アーティスト	病院 TIC グループの助言
角野太一	スミノ タイチ	NPO 法人ハートフル障害者相談支援センター輪っふる	センター長	TIC 研修の運営計画
架場久和	カケバ ヒサカズ	Xyzyx Inc.	取締役	ホームページ外注先
渡辺洋祐	ワタナベ ヨウスケ	あさやけ社会福祉士事務所	ソーシャルワーカー	実務家助言
木村弘子	キムラ ヒロコ	(NPO) 大阪被害者支援アドボカシーセンター	事務局長	実務家助言
楠本節子	クスモト セツコ	(NPO) 大阪被害者支援アドボカシーセンター	全国被害者支援ネットワーク	実務家助言

		ター	ク NNVS 認定コーディネーター	
坂根匡宣	サカネ マサノリ	一般社団法人ダイアログス	代表理事	実務家助言
柏木一恵	カンワギ カズエ	総合病院浅香山病院	ソーシャルワーカー	実務家助言
渡邊宜子	ワタナベ ノリコ	医療法人樹光会 大村病院	社会福祉部教育企画室室長	実務家助言
中村舞斗	ナカムラマイト	NPO 法人虐待どっとネット	代表理事	実務家助言
亀岡智美	カメオカトモミ	兵庫県こころのケアセンター	副センター長	アドバイザーリーボード
西大輔	ニシダイスケ	東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野	教授	アドバイザーリーボード
山本千尋	ヤマモトチヒロ	山城小児科医院	院長	アドバイザーリーボード
佐々木達也	ササキタツヤ	武庫川女子大学経営学部経営学科	教授	アドバイザーリーボード
鴻巣たか子	コウノスタカコ	犯罪被害者団体ネットワークハートバンド	運営委員	アドバイザーリーボード

機関名	部署	協力内容
(NPO) 大阪被害者支援アドボカシーセンター	—	組織連携・ケース協議

## 6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

### 6-1. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

#### 6-1-1. プロジェクトで主催したイベント（シンポジウム・ワークショップなど）

年月日	名称	場所	概要・反響など	参加人数
2022/1/8	被害者支援連携事業、拡大会議	大阪被害者支援アドボ	民間支援センターのスタッフと、TICC被害者支援	30名程度

		カシーセン ター	連携事業の専門職の合同研 修を行い、被害者支援の課 題を共有した。	
2022/3/18 2022/3/30	アドバイザリーボ ード	ハイブリッ ド開催	アドバイザリーボード委員 に参集いただき、第 <b>三</b> 者評 価をもらう	5名×2回
2022/4/23	被害者支援について 考える	オンライン	主催:TICC(こころのケガを 癒やすコミュニティ事業)被 害者支援連携事業 後援:大阪医療ソーシャルワ ーカー協会,大阪社会福祉士 会,大阪精神保健福祉士協 会,大阪ソーシャルワーカー 協会,大阪弁護士会 (結果)被害者支援に関与 したいソーシャルワーカー 等を30名程度が登録。	117名
2022/10/29	トラウマインフォ ームドな人-地域-社会 を目指してー子ども と家族・支援者の協 働ー	ハイブリッ ド開催	【講演】藤林武史氏(西日 本こども研修センターあか しセンター長)のあと、 【シンポジウム】を当事 者、医師、弁護士、 MSW、教員にて開催。	359名
2022/9/14	被害者支援等支援勉 強会①	オンライン 開催	勉強会と、地域別懇話会を 実施し、全国に被害者支援 を担える人材を養成する。	130名
2022/11/9	被害者支援等支援勉 強会②	オンライン 開催	勉強会と、地域別懇話会を 実施し、全国に被害者支援 を担える人材を養成する。	110名
2023/1/11	被害者支援等支援勉 強会③	オンライン 開催	勉強会と、地域別懇話会を 実施し、全国に被害者支援 を担える人材を養成する。	予定 205名
2023/2/15	アドバイザリーボ ード	ハイブリッ ド開催	アドバイザリーボード委員 に参集いただき、第 三者評価をもらう	予定 10名

#### 6-1-2. 書籍、DVD など論文以外に発行したもの

- ・大江美佐里編著『トラウマの伝え方』誠信書房 2021年(第13章 支援者支援：トラウマ・インフォームドケア理解の心理教育 [大岡由佳])の書評(こころの科学 2022年7月号 評者 国際医療福祉大 平島奈津子)
- ・大江美佐里編著『トラウマの伝え方』誠信書房 2021年(第13章 支援者支援：トラウマ・インフォームドケア理解の心理教育 [大岡由佳])の書評 (トラウマティック・ストレス 2022年第20巻第2号 評者 伊敷病院 神田橋 條治)

#### 6-1-3. ウェブメディア開設・運営

- ・TICCのHPの開設 <https://www.jtraumainformed-tic.com/> 2021年7月8日立ち上げ
- ・TICCのInstagram：アカウント：jtraumainfomed 2021年12月7日立ち上げ
- ・TICCのTwitter：アカウント：jtraumainfomed 2021年12月8日立ち上げ

#### 6-1-4. 学会以外のシンポジウムなどでの招へい講演 など

- ・毎原敏郎. 診療所における子ども虐待対応の手引き. 令和3年度姫路市医師会児童虐待防止対策研修会(姫路市). 2021.11.4.
- ・毎原敏郎. 虐待の気づきのポイントと関係機関連携 子どもの発育発達、体重増加不良. 令和3年度大阪府内保健師児童虐待予防研修(大阪市). 2022.2.16.
- ・毎原敏郎. 事例を通して TIC の視点を学ぶ. 京都府児童福祉施設連絡協議会京都府社会福祉協議会京都府福祉人材・研修センター 令和3年度 児童福祉施設職員研修(on line). 2022.2.18.
- ・毎原敏郎. 事例を通して TIC の視点を学ぶ. 令和3年度千葉県基幹的職員研修児童福祉施設(on line). 2022.3.1.
- ・毎原敏郎. 子育て世代と子どもの現状～虐待0,1次予防の観点から～. 兵庫県立大学地域ケア開発研究所周産期ケア研究センター令和3年度子育て支援者研修 これからの産後ケア・子育て支援を考える(on line). 2022.3.5.
- ・毎原敏郎. 子どもの発達と児童虐待の影響 子どもの諸問題. 西日本こども研修センターあかし児童相談所児童福祉司スーパーバイザー義務研修(明石市). 2022.3.11.
- ・毎原敏郎. 姫路市医師会児童虐待防止対策研修会 2021.11.4.
- ・毎原敏郎. 大阪府内保健師児童虐待予防研修 2022.2.16.
- ・毎原敏郎.兵庫県立大学地域ケア開発研究所周産期ケア研究センター 子育て支援者研修 2022.3.5.
- ・毎原敏郎. 西日本こども研修センターあかし 児童相談所児童福祉司スーパーバイザー義務研修 2022.3.11.
- ・毎原敏郎. 尼崎市医師会学術デー 日医生涯教育講座 2022.6.18.
- ・毎原敏郎.金沢医科大学病院 BEAMS Stage1,2022.11.7.

- (11/7 に録画、院内研修としてオンデマンド配信にするとのこと、その研修期間は不明)
- ・ 毎原敏郎. 大阪府内保健師児童虐待予防研修.2022.11.29.
  - ・ 大岡由佳. 「トラウマインフォームドケアの視点から」. 令和3年度若者のこころに寄り添う支援者研修会. 京都市精神保健福祉センター主催研修.2021.12.10.(on line)
  - ・ 大岡由佳「心のケア相談研修」日本精神保健福祉士協会主催研修. 2021.10.28, 2021.11.16(online)
  - ・ 大岡由佳「児童支援に活用したい TIC の視点」京都府児童福祉施設連絡協議会京都府社会福祉協議会京都府福祉人材・研修センター 令和3年度 児童福祉施設職員研修(on line). 2022.2.18.
  - ・ 大岡由佳「犯罪被害者支援における多機関連携-トラウマインフォームドケアの視点から」青森県犯罪被害者等支援担当職員研修会. (むつ会場分 2021.11.4,八戸会場分 11.4, 弘前会場分 11.8,青森会場分 11.9) (ハイブリッド開催、分散研修)
  - ・ 大岡由佳「犯罪被害者支援」国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター主催.令和3年度 PTSD 対策専門研修 C.犯罪・性犯罪被害者コース. 2022. 2.9-10. (on line)
  - ・ 大岡由佳「犯罪被害者支援」国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター主催. 令和3年度 PTSD 対策専門研修 B.専門コース 1. 2021.10.29, 2021.11.19. (online)
  - ・ 大岡由佳「トラウマインフォームドケア」.神戸市 DV センター主催.DV 被害者支援関係機関担当者向け合同研修会.2021.12.5 (あすてっふ神戸).
  - ・ 大岡由佳「精神科領域におけるトラウマインフォームドケアを学ぶ」大阪府こころの健康総合センター主催. 令和3年度地域課題の取り組みに関する研修.2022.2.22. (大阪府こころの健康総合センター) .(ハイブリッド開催)
  - ・ 大岡由佳「子どもの支援-トラウマインフォームドケアの視点から考える」尼崎市こども青少年局子どもの育ち支援センター主催. 2021.12.23. (尼崎市いくしあ) .
  - ・ 大岡由佳「トラウマインフォームドケア (TIC) から読み解く自殺予防」大阪精神保健福祉士協会主催研修.2021.10.9.(on line)
  - ・ 大岡由佳「トラウマインフォームドケア (TIC) の視点から考える支援」尼崎市教育委員会主催.令和3年度不登校対策に係る教員向け研修会.2022.3.1.(尼崎市教育センター).
  - ・ 大岡由佳「トラウマインフォームドケア-トラウマインフォームドなアプローチ6つの原則から.「日常臨床でのトラウマインフォームドケア」日本トラウマティックストレス学会.プレコンGRESS. 2021.7.16. (on line)
  - ・ 大岡由佳「支援者のトラウマとセルフケア」TIC 第2弾研修会 1回目.日本精神保健福祉士協会主催刑事司法精神保健福祉委員会主催.2022.2.12.(on line)
  - ・ 大岡由佳「民間支援団体における性犯罪・性暴力被害者支援の取組とつなぎ支援に向けた連携のあり方」男女共同参画局 男女間暴力対策課主催 行政職員研修、センター長・コーディネーター研修.2022.2.15. (on line)
  - ・ 大岡由佳、西大輔「TIC 企画立案をする際のヒント」全国精神保健福祉連絡協議会主催.

第1回トラウマインフォームドケア企画研修.2022.2.25. (on line)

- ・大江美佐里：メンタルヘルス不調の予防. 第59回福岡県私学教育研修会 学校事務部会  
講演 2022年7月21日 10:30-12:00 於福岡ガーデンパレス 福岡県福岡市
- ・大江美佐里：アルコール関連問題を抱える親を持つ子どもたちの支援について. 令和4年度第1回筑後かかりつけ医・産業医と精神科医連携研修 2022年10月25日 於久留米市久留米医師会館
- ・大江美佐里：発達障害（特性）を持つ子どもにどう対応するか. 福岡県警察本部生活安全部少年課研修（2022年11月25日於福岡県福岡市 福岡県警察本部）
- ・大江美佐里 「PTSDの診断と評価」令和4年度 PTSD 対策専門研修 B.専門コース 2022年12月15日（オンライン）

**6-2. 論文発表**

**6-2-1. 査読付き（6件）**

- ・大岡由佳：絵という媒体を通じて見えてきた精神障害をもつ人々のトラウマートラウマインフォームドケアの実践活動から-人間学研究33,2021:22-31.
- ・大岡由佳：TIC実践-絵という媒体を通して見えてくる精神障害者のトラウマ. 精神保健福祉. Vol52No1.通巻124号.2021:3.
- ・大岡由佳, 岩切昌宏, 瀧野揚三, 浅井鈴子, 毎原敏郎：絵という表現活動を通して見えてくる子ども時代のトラウマートラウマインフォームドケアの実践-.学校安全推進センター紀要 1, 2021:43-54.
- ・大岡由佳：TIC実践としてのアート展-トラウマ理解・普及啓発の挑戦. 精神保健福祉. vol53.No1.通巻128号. 2022:58.
- ・大岡由佳, 肥後有紀子, 岩切昌宏：逆境的小児期体験の影響-成人2事例の語りから. 学校安全推進センター紀要 第2巻.2022:46-55.
- ・ Pfaltz MC, Halligan SL, Haim-Nachum S, Sopp MR, Åhs F, Bachem R, Bartoli E, Belete H, Belete T, Berzengi A, Dukes D, Essadek A, Iqbal N, Jobson L, Langevin R, Levy-Gigi E, Lüönd AM, Martin-Soelch C, Michael T, Oe M, Olff M, Ceylan D, Raghavan V, Ramakrishnan M, Sar V, Spies G, Wadji DL, Wamser-Nanney R, Fares-Otero NE, Schnyder U, Seedat S. Social Functioning in Individuals Affected by Childhood Maltreatment: Establishing a Research Agenda to Inform Interventions. Psychother Psychosom. 2022 Apr 5:1-14. doi: 10.1159/000523667. Epub ahead of print. PMID: 35381589.

**6-2-2. 査読なし（6件）**

- ・大岡由佳：ソーシャルサポートと複雑性PTSD (特集 複雑性PTSDと接する：さまざまな治療的アプローチ). 精神療法 47 (5), 2021:632-634.
- ・大岡由佳：犯罪被害者等支援と福祉連携. 精神科Resident.Vol3.No.2.2022.2-3.
- ・大岡由佳：第1回 トラウマインフォームドケア（TIC）概論.連載タイトル：ト

ラウマインフォームドケア特集—トラウマレンズをかけていますか？. ) PSW通信  
第230号, 2021:2-3.

・大岡由佳・柏木一慧. 第2回 トラウマインフォームドケア (TIC) —精神医療  
編. 連載タイトル: トラウマインフォームドケア特集—トラウマレンズをかけてい  
ますか?. PSW通信 第231号, 2021: 2-3.

・大岡由佳: ソーシャルワーク領域におけるトラウマインフォームドケアの実践. 科学  
評論社『精神科』2022:印刷中.

・大江美佐里: PTSD, 複雑性 PTSD, 遷延性悲嘆症の鑑別診断. 精神科 Resident 3:96-97,  
2022

### 6-3. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

#### 6-3-1. 招待講演 (国内会議 3 件、国際会議 0 件)

・毎原敏郎. 虐待臨床の倫理と心理. 第35回近畿小児科学会教育講演(大阪市). 2022.2.27.

・大岡由佳: ソーシャルワーク領域におけるTIC実践の一例「トラウマインフォームドケ  
アとその展開」. 第18回日本うつ病学会総会/第21回日本認知療法・認知行動療法学会.  
(on line) 2021.7.9.

・大江美佐里: トラウマとストレスマネジメント —現場に応じた支援を工夫する—. 第20  
回日本ストレスマネジメント学会第20回学術大会・研修会 (研修会・分科会3), 2022年  
11月6日 13:00-16:00, 於久留米市 久留米大学御井キャンパス

#### 6-3-2. 口頭発表 (国内会議 9 件、国際会議 2 件)

・Yuuka Ooka: Sharing Perspectives Connecting Perpetrators and Victims-Trauma  
Informed Care. The 12th Annual Conference of the Asian Criminological Society  
(ACS2020).2021.6.18-30.

・大岡由佳: 犯罪被害者支援の必要性—加害者支援の対にある被害者支援への福祉専門職  
の関与に向けての教育の在り方—. 日本社会福祉学会 第69回秋季大会.2021.9.12.

・大岡 由佳、角野太一、高濱浩子、毎原敏郎、井上美智子、浅井鈴子: 地域における絵  
を媒体としたTIC実践/普及啓発の試み. (トラウマインフォームドケア〜わが国における  
実践と展開〜). シンポジウム S-13-3.日本トラウマティックストレス学会.2021.5.30-  
31.

・大岡由佳: メンタルヘルス啓発教育の挑戦. 一般市民を対象にした TIC 実践: 展覧会  
「トラウマ展」. 第20 回日本精神保健福祉士学会学術集会 2A-①. 2021.10.11.

・Rachel Langevin, Polly Cheng, Eleonora Bartoli, Dany Laure Wadji, Monique Pfaltz, Misari  
Oe: Cultural norms about child maltreatment and child maltreatment experiences in Canada  
and Japan: A comparative study. 83rd Canadian Psychological Association Annual National  
Convention 2022, Calgary, Alberta from June 17-19 (oral session at June 17)

- ・大江美佐里:Complex PTSD (ICD-11) の精神療法. シンポジウム 108 変化する社会への対応とうつ病の精神療法 第 118 回日本精神神経学会学術総会 2022 年 6 月 16-18 日、福岡市 福岡国際会議場、福岡サンパレスホテル&ホール 発表 オンデマンド配信限定セッション
- ・大江美佐里:ICD-11 における Complex PTSD 診断について. シンポジウム 42 複雑性 PTSD の理解と治療支援 第 118 回日本精神神経学会学術総会 2022 年 6 月 16-18 日、福岡市 福岡国際会議場、福岡サンパレスホテル&ホール 発表 2022 年 6 月 17 日
- ・大江美佐里: 一般精神科医療で実施できる PTSD 診療とはどのようなものか. シンポジウム 71 一般精神科医療にトラウマ関連疾患診療を普及させるには—課題と工夫— 第 118 回日本精神神経学会学術総会 2022 年 6 月 16-18 日、福岡市 福岡国際会議場、福岡サンパレスホテル&ホール 発表 2022 年 6 月 17 日
- ・大江美佐里: ICD-11 診断での Complex PTSD 総論. 第 21 回日本トラウマティック・ストレス学会 シンポジウム S-11 ICD-11 における Complex PTSD: 診断の基本と中核群症例臨床の実際 (2022 年 7 月 23, 24 日於東京都八王子市いちょうホール (八王子市芸術文化会館), シンポジウム開催日 7 月 24 日)
- ・石田哲也,小俣京子,松尾菜津美,小林雄大,千葉比呂美,松岡美智子,大江美佐里,小曾根基裕: 心理職の立場から Complex PTSD への対応を考える. 第 21 回日本トラウマティック・ストレス学会 シンポジウム S-11 ICD-11 における Complex PTSD: 診断の基本と中核群症例臨床の実際(2022 年 7 月 23,24 日於東京都八王子市いちょうホール(八王子市芸術文化会館),シンポジウム開催日 7 月 24 日)
- ・大江美佐里: 複雑性 PTSD の伝え方・つながり方 当事者・支援者の協働に向けて. 大会企画シンポジウム 1 「社会的養護のもとにある子どもと養育者の介入における複雑性心的外傷後ストレス障害診断の意義」日本子ども虐待防止学会 第 28 回学術集会 ふくおか大会 (2022 年 12 月 10-11 日, 於福岡県福岡市福岡国際会議場・福岡サンパレス)

### 6—3—3. ポスター発表 (国内会議 3 件、国際会議 1 件)

- ・ Polly Cheng, Rachel Langevin, Eleonora Bartoli, Dany Laure Wadji, Monique Pfaltz, Misari Oe: Social norms and child maltreatment experiences and their association with mental health outcomes in Canada and Japan. 83rd Canadian Psychological Association Annual National Convention 2022, Calgary, Alberta from June 17-19 (poster session at June 18)
- ・大江美佐里, Polly Cheng, Eleonora Bartoli, Dany Laure Wadji, Monique Pfaltz, Rachel Langevin: 不適切養育に関する社会規範の文化差がもたらす影響: カナダと日本の比較. 第 118 回日本精神神経学会学術総会 2022 年 6 月 16-18 日、福岡市 福岡国際会議場、福岡サンパレスホテル&ホール 発表 2022 年 6 月 17 日
- ・ Misari Oe, Eleonora Bartoli, Dany Wadji, Polly Cheng, Monique Pfaltz, Rachel Langevin: Resilience is Associated with Child Maltreatment Experiences but Posttraumatic Growth is



Associated with Perceived Norms of Child Maltreatment: A Comparative Study Among Four Countries. The 38th Annual Meeting of the International Society for Traumatic Stress Studies, November 9-12, 2022 at Atlanta Marriott Marquis, Atlanta, USA (poster presentation, November 11, 2022)

・ Dany Laure Wadji, Misari Oe, Eleonora Bartoli, Polly Cheng, Chantal Martin - Soelch, Rachel Langevin: Associations between experienced childhood maltreatment and social norms regarding childhood maltreatment: A crosscultural study. The 38th Annual Meeting of the International Society for Traumatic Stress Studies, November 9-12, 2022 at Atlanta Marriott Marquis, Atlanta, USA (poster presentation, November 11, 2022)

#### 6-4. 新聞報道・投稿、受賞など

##### 6-4-1. 新聞報道・投稿

・ 2021年7月18日 日本経済新聞 「犯罪被害ケアなお途上」犯罪被害者の経済的支援や被害者対応についてのコメント。

・ 2021年11月20日 東京新聞 「登戸事件「支援の対象外」—必要な支援 対応を」被害者についてや、犯罪被害者支援と条例についてのコメント。

・ 2022年1月14日朝刊 読売新聞 「性被害相談 24時間対応」性暴力被害者や、ワンストップ支援センターの現状についてのコメント。

・ 2022年1月15日 日本経済新聞 京都アニメーションの事件の被害者対応についてのコメント。

(TV報道)

・ 2021年11月中旬放送 NHK広島放送局 TICとその現場での取り組みの広がり伝える内容とコメント。

(その他)

・ MiZi通信 8-9月号 (2021.7.23発行) 尼崎版「尼崎からくる人びと」トラウマやTICC事業についてのコメント。

・ 大岡由佳：犯罪被害者の人権. ひょうご人権ジャーナルきずな.11月号.2021,p6.

##### 6-4-2. 受賞

・ 2022:第 118 回日本精神神経学会学術総会 優秀発表賞「不適切養育に関する社会規範の文化差がもたらす影響:カナダと日本の比較」2022年6月18日 福岡

##### 6-4-3. その他

## 6-5. 知的財産

### 6-5-1. 国内特許出願 ( 0 件)

### 6-5-2. 海外特許出願 ( 0 件)

### 6-5-3. 商標権出願 ( 2 件)

- ・「こころの金継ぎ」：TICC、学校法人久留米大学、2020/11/02 登録6455495(商願2020-135820)
- ・「ここきず」：TICC、学校法人久留米大学、2020/11/02、登録6448449(商願2020-135819)

### 6-5-4. 著作権の確保 ( 0 件)

## 7. 領域のプロジェクトマネジメントについてのご意見や改善提案 (任意)

科研費と異なり、研究開発の端々で大変有意義な助言をいただき、一研究者だと研究できないような企画運営等にも携わらせていただくことになりました。心よりお礼申し上げます。

## 8. その他 (任意)